

令和7年度 家庭基礎 シラバス

科目	家庭基礎	単位数	2 単位
対象	部・年次	1, 2, 3部	2年次
目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通し様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		

■身につける資質・能力と、到達レベル

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。
評価方法	・ノート学習 ・定期考査 ・実習においての作品評価 ・実習作品の試食	・ノート学習 ・発問評価 ・定期考査	・授業態度 ・発問評価 ・プリント学習 ・ノート提出

■学習計画

	学習内容	授業の展開方法	使用教材
前期	1章 これからの生き方と家族 2章 次世代をはぐくむ 3章 充実した生涯へ 4章 とともに生きる	・毎回の授業で学習ノートを実施する。 ・単元ごとに自己評価を行う。 ・小テストで定着度をはかる。	・高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる。 (第一学習社) ・家庭基礎学習ノート (第一学習社) ・自作プリント
後期	5章 食生活をつくる 調理実習 6章 衣生活をつくる 被服実習 7章 住生活をつくる 8章 経済生活をつくる		

■どのように評価されるか、学習のアドバイス

・生活の中から課題を見出し、主体的に問題の解決をはかろうとする態度を身に付けること。 ・自立した生活を営むために様々な生活課題に対応して適切に意思決定し責任を持って行動すること。 ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。
--

令和7年度 保育基礎 シラバス

科目	保育基礎	単位数	2 単位
対象	部・年次	3部	3 年次
目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		

■身につける資質・能力と、到達レベル

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	・ノート学習 ・定期考査 ・実習においての作品評価 ・実習作品の試食	・ノート学習 ・発問評価 ・定期考査	・授業態度 ・発問評価 ・プリント学習 ・ノート提出

■学習計画

	学習内容	授業の展開方法	使用教材
前期	1章 子どもの保育 2章 子どもの発達 3章 子どもの生活 ・全国高等学校家庭科保育技術検定受検	・毎回の授業でプリント学習を実施する。 ・单元ごとに自己評価を行う。 ・小テストで定着度をはかる。 ・検定受検を通して技術を身に付ける。	・保育基礎 (教育図書) ・自作プリント
後期	3章 子どもの生活 4章 子どもの福祉 5章 子どもの文化 ・全国高等学校家庭科保育技術検定受検		

■どのように評価されるか、学習のアドバイス

・生活の中から課題を見出し、主体的に問題の解決をはかろうとする態度を身に付けること。 ・自立した生活を営むために様々な生活課題に対応して適切に意思決定し責任を持って行動すること。 ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身に付けること。
--

令和7年度 ファッション造形基礎 シラバス

科目	ファッション造形基礎	単位数	2 単位
対象	部・年次	1・2 部	3・4 年次

目標 家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ファッションの造形を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。

■身につける資質・能力と、到達レベル

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価方法	考查 作品（基平・3級検定） プリント	自己評価（目標と評価） プリント	プリント 自己評価（反省と次時の課題設定）

■学習計画

	学習内容	授業の展開方法	使用教材
前期	1章 衣服の構成 2章 衣服の素材 ・全国高等学校家庭科被服技術検定受検	・基礎的な知識の学習では、自作プリントを活用して授業を行う。 ・日々の授業後自己評価を行う。 ・検定受検を通して基本的な技術を身に付ける。 ・洋服・和服の制作を行う。	・ファッション造形基礎（実教出版） ・自作プリント ・基平製作キット ・被服技術検定
後期	3章 洋服の製作 4章 和服の製作		

■どのように評価されるか、学習のアドバイス

- ・技術的向上ができるようになるためには、欠席をしないで担当教員に確認しながら丁寧に製作をしていくこと。
- ・評価では、作品の完成度や取組姿勢、どれだけ自分で考えてできるようになったかなどが重視されます。

令和7年度 服飾手芸 シラバス

科目	服飾手芸	単位数	2 単位
対象	部・年次	3部	3, 4年次
目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、創造的な手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。		

■身につける資質・能力と、到達レベル

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	手芸の種類と特徴及び変遷、各種手芸の技法などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	手芸の美的価値及び製作工程に関する課題を発見し、手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	手芸品の製作を目指して自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。
評価方法	・プリント学習 ・定期考査 ・実習における作品評価	・プリント学習 ・発問評価 ・定期考査	・授業態度 ・発問評価 ・プリント学習 ・提出物

■学習計画

	学習内容	授業の展開方法	使用教材
前期	1 基礎縫い(手縫い) 2 手縫いを用いた作品制作 3 手芸について 4 和服材料について	・手縫い、ミシン縫いの基本的な技術を習得し、活用して作品制作を行う。 ・プリント学習で手芸の基礎知識を習得する。	・自作プリント ・播州織の布地
後期	5 基礎縫い(ミシン縫い) 6 ミシン縫いを用いた作品制作 7 被服材料について 8 播州織について		

■どのように評価されるか、学習のアドバイス

・ 作品制作に必要な知識、技術を確実に身に付ける。 ・ 服飾手芸の歴史や現状を理解し、関連する知識や技術を身に付けること。 ・ 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

令和7年度 フードデザイン シラバス

科目	フードデザイン	単位数	2 単位
		対象 部・年次	1・2 部 4 年次

目標 家庭の生活に関する産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。

■身につける資質・能力と、到達レベル

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価方法	考査 授業プリント 実習内容達成度	考査 授業プリント	授業プリント 課題レポート

■学習計画

	学習内容	授業の展開方法	使用教材
前期	1 章 食生活と健康 2 章 栄養素のはたらきと食事計画 3 章 食品の特徴・表示・安全 6 章 フードデザイン実習 ・全国高等学校家庭科調理技術検定受検	・基礎的な知識の学習では、自作プリントを活用して授業を行う。 ・日々の授業後自己評価を行う。 ・検定受検を通して基本的な技術を身に付ける。 ・調理実習を行う。	・フードデザイン（実教出版） ・自作プリント ・調理技術検定
後期	4 章 調理の基本 5 章 料理様式とテーブルコーディネート 6 章 フードデザイン実習 7 章 食育		

■どのように評価されるか、学習のアドバイス

・技術的向上ができるようになるためには、欠席をしないで担当教員に確認しながら丁寧に実習に取り組むこと。
・評価では、授業プリントの完成度や取組姿勢、どれだけ自分で考えてできるようになったかなどが重視されます。

令和7年度 ふるさと手芸 シラバス

科目	ふるさと手芸	単位数	2 単位
対象	部・年次	1・2 部	3・4 年次

目標 被服製作に必要な基礎的技術を身に付けることを目指す。
播州織を活用した被服製作を通して地場産業である播州織の廃材活用方法を考案し、持続可能な地域社会の形成者となるために必要な資質・能力を育成することを目指す。

■身につける資質・能力と、到達レベル

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	被服製作に必要な基礎的知識と技術を習得する。	基礎的知識と技術をもとに作品製作の手順を正しく理解し、効率よく丁寧に作品製作する力を養う。	播州織に関連する産業に対する理解を深め、テーマに応じた播州織作品の考案し、創意工夫する力を養う。
評価方法	・プリント学習 ・定期考査 ・実習においての作品評価	・プリント学習 ・発問評価 ・定期考査	・授業態度 ・発問評価 ・プリント学習 ・提出物

■学習計画

	学習内容	授業の展開方法	使用教材
前期	1 基礎縫い(手縫い) 2 基礎縫い(ミシン縫い) 3 播州織を用いた作品制作	・手縫い、ミシン縫いの基本的な技術を習得し、活用して作品制作を行う。 ・プリント学習で手芸の基礎知識を習得する。 ・播州織の端切れを利用した作品を考案する。	・自作プリント ・播州織の布地
後期	3 播州織を用いた作品制作 4 播州織の端切れ利用作品の考案		

■どのように評価されるか、学習のアドバイス

- ・作品制作に必要な知識、技術を確実に身に付ける。
- ・地場産業である播州織について歴史や現状を理解し、地域社会の一員として問題の解決をはかろうとする態度を身に付ける。
- ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につける。